

新潟市バイオリサーチセンター指定管理者事業計画の比較

評価項目	NBRP共同企業体（選定者）	次点																																																												
1. 団体の概要	<p>構成団体について以下のとおり(H21.3.31現在)</p> <p><b>○新潟バイオリサーチパーク(株)</b>                      代表者：代表取締役社長 A                      設立：平成15年4月16日                      資本金：1億6,000万円                      従業員数：正職員2名                      事業内容：機能性食品の評価 など</p> <p><b>○(株)ブルボン</b>                      代表者：代表取締役社長 B                      設立：大正13年11月20日                      資本金：10億3,665万3000円                      従業員数：正職員3,895名                      臨時・パート1,002名                      事業内容：食品（お菓子等）製造・販売など</p>	<p>(H21.9.25現在)</p> <p>代表者：代表取締役 C                      設立：昭和62年10月15日                      資本金：5,000万円                      従業員数：正職員115名 臨時・パート1名                      事業内容：上下水道処理施設、し尿処理施設、ごみ焼却施設等のオペレーションとメンテナンス など</p>																																																												
2. 財務内容	<p><b>○新潟バイオリサーチパーク(株)</b>(各年度3月末決算)                      決算書 単位：千円</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収入</td> <td>63,837</td> <td>57,665</td> <td>55,795</td> </tr> <tr> <td>支出</td> <td>67,115</td> <td>76,388</td> <td>73,604</td> </tr> <tr> <td>当期損益</td> <td>△3,278</td> <td>△18,723</td> <td>△17,809</td> </tr> <tr> <td>累積損益</td> <td>△96,947</td> <td>△115,670</td> <td>△133,479</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>○(株)ブルボン</b>(各年度3月末決算)                      決算書 単位：百万円</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収入</td> <td>93,575</td> <td>96,557</td> <td>101,309</td> </tr> <tr> <td>支出</td> <td>92,487</td> <td>96,156</td> <td>100,907</td> </tr> <tr> <td>当期損益</td> <td>1,088</td> <td>401</td> <td>402</td> </tr> <tr> <td>累積損益</td> <td>23,021</td> <td>23,229</td> <td>23,458</td> </tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	収入	63,837	57,665	55,795	支出	67,115	76,388	73,604	当期損益	△3,278	△18,723	△17,809	累積損益	△96,947	△115,670	△133,479		H18	H19	H20	収入	93,575	96,557	101,309	支出	92,487	96,156	100,907	当期損益	1,088	401	402	累積損益	23,021	23,229	23,458	<p>(各年度4月末決算)                      決算書 単位：千円</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収入</td> <td>400,494</td> <td>663,901</td> <td>721,119</td> </tr> <tr> <td>支出</td> <td>399,995</td> <td>663,377</td> <td>730,189</td> </tr> <tr> <td>当期損益</td> <td>499</td> <td>524</td> <td>△9,070</td> </tr> <tr> <td>累積損益</td> <td>31,565</td> <td>32,089</td> <td>23,019</td> </tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	収入	400,494	663,901	721,119	支出	399,995	663,377	730,189	当期損益	499	524	△9,070	累積損益	31,565	32,089	23,019
	H18	H19	H20																																																											
収入	63,837	57,665	55,795																																																											
支出	67,115	76,388	73,604																																																											
当期損益	△3,278	△18,723	△17,809																																																											
累積損益	△96,947	△115,670	△133,479																																																											
	H18	H19	H20																																																											
収入	93,575	96,557	101,309																																																											
支出	92,487	96,156	100,907																																																											
当期損益	1,088	401	402																																																											
累積損益	23,021	23,229	23,458																																																											
	H18	H19	H20																																																											
収入	400,494	663,901	721,119																																																											
支出	399,995	663,377	730,189																																																											
当期損益	499	524	△9,070																																																											
累積損益	31,565	32,089	23,019																																																											
3. 団体(会社)の経営理念	<p>(1) 新潟薬科大学を核としてバイオテクノロジーに関する事業を推進、バイオリサーチセンターを活動の拠点として、その管理運営を円滑に行う。</p> <p>(2) 事業の成果を検証し、地域産業の振興・発展に寄与することを目的としてバイオリサーチセンターの管理運営にあたる。</p>	<p>更に“豊か”で“快適”な未来社会の実現に向けて、環境整備保全の為の様々な要望に応えるよう広範な技術分野における有能な人材を確保育成し、市民とともに発展する企業として努力している。</p>																																																												
4. 指定管理者申請の動機	<p>施設の効用を最大限発揮するためには、利用するコンソーシアム（共同研究体）等を継続的に構築する必要がある。これまでも、コンソーシアムの一員として産学連携事業を展開してきた実績を持つ新潟バイオリサーチパーク(株)と(株)ブルボンが一体となり、今までの経験と実績を踏まえてバイオリサーチセンターの管理運営にあたるのが妥当と考えた。</p>	<p>環境分野の研究者にもより多く利用していただけるよう、自社の環境事業・維持管理業務の経験を活かし、ニーズを研究者へ提供し、研究開発に役立てていただきたく申請した。</p>																																																												
5. 管理運営の方針	<p>(1) 施設の効用を最大限に発揮するため、コンソーシアム活動を積極的に行う。</p> <p>(2) 施設の設置目的に従って、公的助成金を積極的に活用し、研究施設に配備できるよう努める。</p> <p>(3) 施設の警備・清掃を徹底し、各種整備の定期点検を実施する。</p> <p>(4) 関連する条例・規則を遵守する。</p>	<p>20年以上にわたり環境関連施設の維持管理、環境調査等に携わってきた経験の中で培った「安心と安全への徹底したこだわり」と言う観点から、利用者が安全且つ安心して研究・開発活動を行える施設環境づくりを目指す。</p>																																																												

6. 利用者確保対策	<p>(1) 新潟薬科大学を核とした産学連携コンソーシアムを積極的に推進する。</p> <p>(2) 既存の共同研究体との連携を強め、成果の向上に努める。</p>	<p>(1) 施設の設立目的に適した範囲でより多くの利用者に平等に使用する機会を提供するため、ホームページの開設や、市内県内だけでなく遠方の大学や企業への案内状の送付を行う。</p> <p>(2) 施設利用申込方法は多選択肢（郵便、ファックス、e-mailなど）を用意することによって公平性を保つ。</p>
7. 組織・人員体制	<p>(1) 主として施設管理部門を㈱ブルボン、産学連携推進コーディネイト部門を新潟バイオリサーチパーク㈱が担う。</p> <p>(2) 産学連携推進コーディネイトについては、新潟薬科大学産官学連携推進センターと協力する。</p> <p>(3) センター長1名、正社員2名、契約社員2名</p>	<p>(1) 現管理員の再雇用を含めて、担当業務分野に精通しかつ経験を有するスタッフを配置し、機動的に施設運営業務を展開する。</p> <p>(2) センター長1名、事務員1名、警備員1名、清掃員1名、(非常勤)設備管理者1名。</p>
8. 運営の中心となる者	<p>(1) センター長 池川信夫 東京工業大学、新潟薬科大学名誉教授、薬学博士</p> <p>(2) 技術者 佐藤征也 新潟バイオリサーチパーク㈱社長、医学博士</p>	<p>センター長は未定であるが、社員の所属していた大学などに交渉中。手配後、研修を行い配置する。</p>
9. 人材育成対策	<p>(1) 新潟薬科大学の技術・研究課題や地元企業の課題・要望などについて団体内で情報共有化し、大学との情報交換会等に積極的に参加することで、産学連携コーディネイトに関する意識を高める。</p> <p>(2) 管理業務仕様書、協定書、関係法令等の遵守を徹底させる。</p>	<p>ビジネスマナー講習、個人情報保護講習、安全衛生講習、安全パトロールを実施し、本社からの派遣講師による効果の確認を行う。</p>
10. 要望・苦情対応	<p>(1) 利用者アンケートを実施し、意見・要望に対する適切な対応と迅速な解決を目指す。</p> <p>(2) 苦情対応は丁寧に行うとともに、関係者への適切な情報伝達に努める。</p> <p>(3) 新潟薬科大学と連携して市民講座を充実させ、地元住民との対話に努める。地元町内会に参画し、イベントには積極的に参加する。</p>	<p>(1) 施設利用に係る苦情や意見・要望に対しては、貴重な情報源であるとともに利用者の期待の現れであるという姿勢で利用者の尊厳を最大限尊重し、意見をよく聞き、誠実に話し合いを持ち、相手の理解を得られるよう、懇切丁寧な対応を実施する。</p> <p>(2) クレームが発生する前に、その要望にできる限り迅速に対応するため、随時、意見箱のような形で先に提案を受け、利用して頂く側と管理する側が協働して施設を改善することに繋げていく。</p>
11. 緊急時対策	<p>(1) 防災訓練を年1回実施する。</p> <p>(2) 施設利用者との情報交換会を開き、防災・危機管理の意識向上を目指す。</p> <p>(3) 各種防災関連マニュアルの周知徹底と緊急連絡網の明確化により、迅速な情報伝達と二次災害防止に努める。</p> <p>※消防計画、地震対策、ガス異常発生時における緊急対処フローチャートの各種マニュアル提示あり</p>	<p>本施設は研究施設なので様々な測定機器がある。中には常時運転や常時通水のものがあり、断水・停電時には研究上の重大な損失、または、様々な薬品やガラス器具などがあるので、使用中の怪我や震災時の事故による怪我など想定され、それらに対する的確な対応が必要になる。そこで状況別に下記フローにより利用者、新潟市へ対応する。</p> <p>(1) 断水・停電発生時の連絡・対応フロー (略)</p> <p>(2) 事故・災害発生時の連絡・対応フロー (略)</p> <p>※マニュアル提示なし</p>
12. 利用者情報管理・個人情報保護関係	<p>NBRP共同企業体を構成する新潟バイオリサーチパーク㈱の「秘密情報(トレードシークレット)社内管理規程(平成16年5月制定)」に準じ、「個人情報の保護に関する法律」及び「新潟市個人情報保護条例」の趣旨を遵守する。</p>	<p>関係法令を遵守し、設備の整備と個人情報保護の教育を実施し、確実に管理する。</p>
13. 効率的・効果的な経費支出	<p>(1) 機械警備、清掃管理等について専門知識及び実績のある業者に外部委託する。</p> <p>(2) 外部委託については安価な経費を優先するが、実績と安心・安全管理が保障できる業者を選定する。</p> <p>(3) 電気料、ガス料など需用費については、センター内交流会などを通じて節約の励行・無駄遣いの廃止徹底を呼びかける。</p> <p>(4) 消耗品や電話料などの事務費について、施設の効用を妨げる事のない範囲で節約を実施する。</p>	<p>(1) 研究活動に支障がない範囲での高熱水費削減の呼びかけを行う。</p> <p>(2) 光熱水費について、各研究室の使用料をグラフで示し、無駄遣い確認に利用してもらう。</p> <p>(3) 利用者からは、ゴミの分別だけでなく減量にも協力いただき、ゴミ処理にかかる費用を削減する。</p>

	(5) 旅費などの事業費について無駄のない運用を実施する。	
14. 産学連携コーディネート事業	(1) 新潟薬科大学産官学連携推進センターと一体となって企業の開発ニーズの調査・発掘を行う。 (2) すでに推進している産学連携事業を成果に結びつけるため、積極的に新技術の導入や情報提供及び人材教育活動に努める。	隣接の新潟薬科大学にて入居者及び新潟薬科大学の各研究室の研究発表会・技術交流会や地元産業との親睦会を実施し、研究者と企業の接点を作る。
15. 収支計画	H22年度 収入) 委託料: 11,525千円 支出) 人件費: 4,800千円 管理費: 6,725千円 合計: 11,525千円	H22年度 収入) 委託料: 11,525千円 支出) 人件費: 5,000千円 管理費: 6,340千円 合計: 11,340千円